

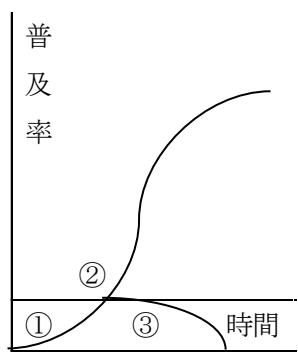
臨界を信じて

臨界という言葉を知っていますか。国語辞典によると次のように説明してあります。

- ①さかい、境界。②物質がある状態から別の状態へと変化するそのきわ。
- ③特に核分裂連鎖反応で、中性子の生成と消去とが均衡状態であること。原子炉では核分裂が持続的に進行しはじめるようになることをいう。（『精選版 日本国語大辞』）

下のグラフを見ながら携帯電話などの通信メディアの普及について考えてみましょう。出始めた頃（①）は多くの人々が利用していなかったため、例えばメールやラインをやっても用をなさないため普及の伸びが緩やかでした。しかし人々の中でその広がりがある一定の水準（②）を超えると、突然爆発的に普及するようになりました。逆にそこまで普及しなかったら、人々に受け入れられないままに衰退してしまっただと考えられます（③）。この爆発的に普及するようになる節目となる時点を「臨界」と呼ぶのです。

さて、この臨界という概念は皆さんの学習にも当てはまると思います。学習をやり始めた頃はなかなか効果が表れないものです。学習方法が間違っているのではないかと、能力がないから早めに諦めたほうがよいとか、色々と思いつく時期でもあります。ところが、ある時点を過ぎると急に効果がみられるようになります。もちろんその時期は人によって、教科によって様々ですが、こうした臨界を超えると達成感を感じて学習に取り組めるようになるのでさらにやる気が出て成績が伸びるといふ相乗効果もみられます。だから学習ではこの臨界までいかに我慢して取り組めるかがその成否の鍵となるのです。



では臨界を信じるにはどうしたらよいのでしょうか。初心に立ち返るのも一つの方法です。高校に入学した当初の自分や志望校をなぜ目指そうと思ったのかを再確認することです。また入学式で大学の門前に立った自分を想像してみるのも良いでしょう。しかし敢えて受験を意識から外すことを試みてはどうでしょう。実際受験勉強は入試だけに役立つものではありません。時間の効率的な使い方や自己コントロールなど将来社会で役立つことは計り知れません。今やっている努力はすぐに報われないかもしれないけれど必ずいつかは報われるものです。またそう思うことでプラスの効果を生み出すこともあります。だから自分を信じて今の努力を継続することには意味があるのです。

「**臨界を一度経験した者には豊かな人生が待っている**」と念じてください。（文責：今井雅）
『大学生の学びのハンドブック』（世界思想社）参照

『大学生の学びのハンドブック』（世界思想社）参照

1年の窓

1年生の皆さん、中間考査はどうだったかな？高校に入学して初めての本格的な試験、加えて中学校では5つだった試験が今回は2倍もあり疲れたでしょう。それだけに今、大きな解放感や、やりきった感を感じている人も多いかと思えます。しかし、勘違いしてはいけません。定期考査はあくまで現在の学力の定着度を測るためのもの、決してゴールではありません。結果に不満な人は勿論、満足している人も必ず返って来たテストを見直し、試験に臨むまでの取り組みを思い出し、間違えたところや苦労したところを再度復習しなくてはレベルアップにつながりません。相撲には“3年先の稽古”という言葉がありますが、3年生となった時に、自分がどのようになっていたのかを常に意識して今後も頑張りましょう。

（文責：鈴木）

2年の窓

先週は2年生最初の進路説明会がありました。皆さんは、今年を「自分と向き合う一年」にするために、なにか具体的な見通しを持ってましたか？

さて、修学旅行が終わり、中間考査も今週で終わりです。そんな今、「中だるみ」をしてしまいそうな人はいないでしょうか。確かに2年生は、高校入学当初の緊張感が薄れ、大学入試は来年度のため、自身の「目標」をなかなか見定められない時期かもしれません。しかし、進路選択や来年の入試で悔いを残さないためにも、2年生の現時点における努力が非常に大切になります。今月からはよいよ、自分の進路について検証する絶好の機会になる「ゼミ学習」が始まります。ゼミ学習を通じて、自分が学びたいこと、学ぶべきこと、そして自身の「目標」を明確にしていきましょう。中だるみをしている暇、ありませんよ！（文責：立田）

3年の窓

全統マーク模試結果が返却されました。まさかと思いますが、判定に一喜一憂していませんか？また、偏差値だけを見ていませんか？マーク模試の結果の見方には注意が必要です。

①結果は偏差値ではなく得点率でも判断をしましょう。マーク模試の平均点は回を重ねるたびに上昇していきますので、同じ学力でも偏差値は下がっていきます。そのため得点率で判断をします。センター利用の入試（国公立・私立一部）の得点率ボーダーラインは公開されています。不明な場合は進路学習室後方の大学過去問（赤本）の隣にデータが保管された棚があります。みなさんも使用していいので活用してください。（見つからない場合は進路竹腰まで）

②昨年と比べて浪人生が増加しています。これは旧カリキュラムの関係で一昨年は浪人が難しい状態にありました。また、昨年対策が不十分で再挑戦する生徒も増加しました。一年先に受験勉強をしているため、浪人生は良い判定が出ます。でも、後期は伸び悩む人が多くなります。みなさんはこれからです。秋に学習する範囲が終わります。そこから応用問題にトライして、12～1月に浪人生を抜いていきます。今は基礎を固める時期です。この基礎固めをしっかりとできていれば、秋冬で大きく成長します。着実な基礎固めを優先しましょう。また、私立を中心にセンターのみの試験方式で志望校を書いた人も多いと思います。出願するだけでよいので、合否ラインが難化します。センタープラスは各大学で入試を実際受けるため比較的難化しません。この点も注意しましょう。（文責：竹腰）

○文系の窓○

リベラルアーツ学部とは？

みなさんはリベラルアーツという言葉を知っていますか？日本語に訳すと「教養」です。元来、大学とは専門科目を学び、ある分野の専門性を高める場所です。その前提として、幅広い知識をつけるために教養科目を講義に取り入れて1、2年生で受講させる大学がほとんどです。例えば、文学部は、文学について専門的にその分野を高めるという意味でその名前がついているわけですが、今回紹介する学部は学部名にリベラルアーツ（教養）がついています。特定の分野を高めるわけではなく、幅広い知識を高めるわけです。近年、文系、理系にとらわれない知識が必要となったり、文系分野でも様々な専門性を融合させ複合的に作業したりする能力が求められています。これらの能力を高め、社会で活躍する人材を目指す学部のようなのです。さきがけとしては、国際基督教大学が有名です。この大学は皇族の佳子様が入学された大学としても取り上げられました。この他にも、秋田国際教養大学や首都大学東京の都市教養学部などもあります。

そして、最近では専門領域を高めながら、それを支える複数学問領域を学ぶ学部などもでてきているようです。例としては、慶応大学SFCの総合政策学部や名古屋大学の情報文化学部（文理どちらでも可）関西大学総合情報学部、社会安全学部などがあります。

つまり、最近の傾向としては、専門性だけではなく、幅広い知識や教養が社会での活躍には必要な力と認識して、大学でも重点を置くようになってきました。（文責：波勢）

○理系の窓○

〈未来の社会を考えて①水素社会〉

大学では研究結果が身近なものに応用されるものもあります。しかし、同時に、5～10年後、中には20年後以降に実用化されるものもあります。日本はエネルギーが乏しいため、エネルギー開発が盛んに研究され、同時に地球温暖化対策のためクリーンなエネルギーが求められています。今回は、近い将来のエネルギー、水素について紹介します。

ご存じの通り、水素は酸素と反応して水になります。この時、電気エネルギーが生じます。また、化石燃料は地球温暖化をもたらす二酸化炭素が発生するため、以前から水素は注目を浴びてきました。2003年にアメリカが水素社会を促進させると世界に発信しましたが、水素自体の安全性や反応後の水が気体や固体になるため、扱いが難しく、なかなか実用化にこぎつけることが出来ませんでした。トヨタ自動車の「ミライ」が発売されましたが、まだまだ課題は多く存在します。まず、水素を生み出す方法です。水の電気分解を思い浮かべる人も多いかと思いますが、現在日本で用いられている水素は再生可能エネルギーではなく、化石燃料から水素を取り出しています。また、その過程で二酸化炭素が生じています。また、自動車で考えるとガソリンの2倍の費用が必要です。そのため、水素の効率よく、環境によい生産方法について研究が多々行われています。工学、農学、理学…さまざまな分野からこの研究にチャレンジしています。次に、安全性です。水素は反応性が高い物質であるため、水素の保管について、素材、施設、運用方法について研究が進められています。このように、身近な物質ですがまだまだ大学で研究が続けられています。

（文責：竹腰）

☑総合学習の扉☑

2年生のB～F組では、月曜7限ゼミ学習がよいよスタートです。8日の説明会でどんなことを学習していくのか、イメージはついたでしょうか。皆さんに求めるのは、自分自身の興味関心が何に向いているかを見つめること、自身が設定したテーマについて調査、実験し追究すること、研究の成果を分かりやすく伝える表現力を伸ばすこと、などです。いずれも、日頃の授業では培えない力ばかりです。大変だからこそ、努力した時の成果は大きい！どうせやるなら前向きな気持ちで臨みましょう。

そして、現在、どのゼミに所属するのか希望調査中です。ゼミの学問系統から主要3つを紹介します。

人文科学系統…「文化」について学ぶ。また、それを創造した「人間」そのものも研究対象である。人間の「心」や、人と人との関係である「社会」など、分野によって異なるアプローチで「人間とは何か」を考える学問。

社会科学系統…「社会」は政治や法律、経済、教育など多くの要素から成り立ち、いずれも社会を円滑に機能させるために欠かせない。人類の様々な問題に、具体的な政策や改革案を研究しよりよい選択を考える学問。

理学系統…観察や実験を通じて、自然界のあらゆる物事を対象に「理(ことわり)」を解明していく。自然界にある物質の仕組みや特性を分析したり、自然現象の原理や法則性を見つけ出し、理論を確立することを目的とした学問。

この3系統以外にも学問系統は存在します。皆さんが興味をもって取り組めるのはなんでしょうか。自分自身と向き合い、どの学問系統を選択するのかを考えてください。（文責：谷）

○Book Review○

『フェアトレードのおかしな真実』 コナー・ウッドマン(栄治出版 2013)

『フェアトレード商品』、私は消費者が購入することで発展途上国の労働条件が改善できるという善意の意識でコーヒー豆を購入したことがあります。それは、安価なチョコレート原料のカカオやコーヒー豆には、不当に搾取される生産者、強制労働者や奴隷扱いされる児童労働者の存在があることから、フェアトレード活動が始まったことを知ったからです。

この本は、「特定のコーヒーを買うことで誰かの暮らしを改善できることは可能なのだろうか？」という疑問を抱いた著者が生産地の現状を自分の目で確かめるために、一年間の旅に出て得た事実をまとめた内容です。この本では、レストランチェーンが大量輸入するニカラグアのロブスター漁では、粗悪な機材を装着して潜水し命を落とすか後遺症で苦しむ青年が紹介されています。また、とある中国・深圳（シンセン）の電子機器の製造を請け負う工場では、法定最低賃金を無視した労働条件で働く10代後半の若者らが、一か月の間に16人も飛び降り自殺した事実を取り上げられ、著者が実際に目撃した風景や現地の人との会話が、この本ではありのままに描かれています。フェアトレードのしくみと問題点も具体的に分かり易いです。

フェアトレードをうたっている私たち先進国の豊かな生活の裏にはこうした発展途上国の現状があることを知ることができます。もちろん世界を変えることは簡単ではありませんが、著者が命がけで目にした世界の現状を知ることが意味のあることだと感じた一冊です。

（文責：西崎）

